

介護現場の皆さんの心に響く働きかけが必要

野澤高一 × そのだ修光

株式会社アノン代表取締役

全国老施協常任理事・
参議院議員

そのだ 7月の第25回参議院議員選挙では自民党・公明党が71議席を獲得し、非改選の70議席と合わせて141議席として野党等の104議席を圧倒する形となりました。選挙プランナーである野澤さんは、今回の選挙をどのように見ておられますか。

野澤 残念だったのは50%を割り込んだ低投票率です。タレント候補もいましたが、超有名人ではなかった。そんななか、耳目を集めたのが、れいわ新選組とNHKから国民を守る党でした。主張の是非は別として、

今回は株式会社アノン代表取締役の野澤高一氏をお招きしました。野澤氏は、調査・選挙プランナーとして幅広く活動されています。今回の参議院議員選挙を振り返っていただくとともに、介護業界を代表する国会議員を増やすことの意義などについてお話を聞きました。

17日間、自分たちが何をしたいのかを訴え続けたのは事実で、情報発信力が強いからマスコミも扱った。しかし、私としては福祉などについてより具体的な論争が聞きたかったですね。

そのだ おっしゃる通りです。高齢化が進み、介護はますます大きな政治テーマになるのは間違いないのですから。

野澤 医療のほうは多くの医師が国会議員になっていきますし、薬剤師も議員になっていきます。介護の代表ももっと増やさなければなりません。

そのだ 介護業界にはこれだけ多くの人が働いているのですから、障害者系で一人、高齢者系で一人というように、複数の代表がいてもおかしくありません。

野澤 全国老施協のように組織内候補を立てられる職能団体はごく一部に限られます。このことは誇ってよいことであり、大いに活かすべきことでもあります。

そのだ 介護現場の声を国政の場に

届けるため、3年後の参議院議員選挙に向け、全国老施協としてどのように取り組んでいくかですが、組織内候補を擁立するにあたっては、施設の理事長や施設長の方だけでなく、現場の職員の皆さんすべての心に響くような働きかけが必要だと感じています。

野澤 職員の皆さんは日々高齢者に向き合うことに一所懸命でしよう。政治は縁遠いものと感じているかもしれない。しかし、皆さんの暮らしや生活のあり方の基礎を決めるのが政治です。介護に関しても、ご利用者様のためにも、職員皆さんの自己実現のためにも、より良い職場環境を整えていくことに政治を役立たせていく必要があります。

そのだ 政治に携わる者の一人として、今後も介護をより魅力のある仕事にしていくなために尽力し、国民の皆さんが安心して介護を受けられる社会をつくっていききたいと思えます。

さらに詳しく知りたい方は、ホームページにアクセスしてください。

そのだ修光

検索

または、<https://shuko-sonoda.com/>

公式LINEアカウント：

<https://page.line.me/psd1500s>

LINEの「友だち追加」より

友だち登録をお願いします！

